

新たな試み:ランチオンセミナーを実施

～ あいつ就活やめたってよ。研活するってさ。～

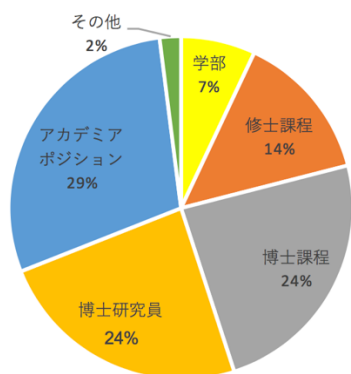
本セッションでは、大学・大学院で数理生物学研究を続けることでその先にどんなキャリアの可能性があるのか不安を抱える学生に、いかにして自身の価値を高めキャリアを切り開くかを伝えることを目標とした。



10/8 (日)、第27回日本数理生物学会年会にて、株式会社リバネス取締役副社長 CTO・井上浄氏並びに九州大学の岩見真吾准教授が主催でランチオンセミナー第1回「数理生物学におけるキャリアパスについて」を開催した。

セミナー概要

九州大学の巖佐庸高等研究院長、明治大学の小川知之副学長、北海道大学の西浦博教授、株式会社クラスティウムの宮崎悠矢代表取締役を招き、株式会社リバネス人事開発事業部部長・上野裕子氏を含めた5人を登壇者として、パネルディスカッション形式で各領域の第一線で活躍する方々のお話を聞ける貴重な機会となった。当日参加含め59名もの参加者が集まった。



[あなたのポジションは?]

今回のセミナーで特筆すべきは、「sli.do」というツールを導入したことにより、聴衆側がリアルタイムでリアクションや質問を会場に投げかけることが可能だった点である。また、その場でアンケートをとることもでき、左図や下記のような結果を得た。

研究は楽しいですか? —Yes: 90%, No: 10%

5年後の自分が想像できますか? —Yes: 20%, No: 80%

参加者の半分弱が学生という中で、ほとんどの人が「研究は楽しい」と答えた一方で、将来のビジョンについてはこれまた大多数が不安を抱いているようだ。

[本セミナーで登場した sli.do 内のトピックスのワードクラウド解析より抜粋]



“研活” 始めましょう。

参加者からの質問は、「企業は学生を取ってくれるのか」「博士課程に進むと詰むのではないか」など、やはり将来への不安に起因するものが多かった。これに対し先生方の答えとして共通していたのは「自分が何をしたいのかを常に考え、それを自分の強み・スタイルとする」ということである。企業のために就活をするのではなく、研究活動＝“研活”を通して自分の問いを追求することこそが、アカデミア、ひいては産業界にも通じていくということ、参加者に強く訴えた。